

引田城跡アクセスマップ



引田城跡ハイキングガイド

★ボランティアガイドが現地案内をします。希望日の2週間前までにお申し込みください。

申込先

【平日の申込先】
東かがわ市教育委員会 生涯学習課
☎ 0879-26-1238(平日)

【土日祝の申込先】
讃州井筒屋敷
☎ 0879-23-8550(水曜定休)

内面の拡大地図をご覧ください。

アクセス(登山口1)

【JRでお越しの場合】
JR高松駅引田駅から徒歩約20分

【車でお越しの場合】
高松自動車道引田ICから約10分

引田城跡は貴重な国史跡です。引田城跡がある城山一帯は、国有林、瀬戸内海国立公園、保安林が含まれます。関係法令を遵守してください。

注意事項

- 動きやすい靴と服装で登山してください。
- 遊歩道以外は通らないでください。
- 夜間の散策は危険です。
- 日中の明るいうちに登山してください。
- 水分補給など、体調を考慮しながら登山してください。

禁止事項

- 火気の使用(喫煙も含む)
- 瓦や石垣の石の持ち出し・移動
- 石垣等への落書きや、石垣等に登るなどの危険行為
- ゴミのポイ捨て
- 樹木の伐採、動植物の捕獲・採取

「続日本100名城」スタンプラリー スタンプ設置場所

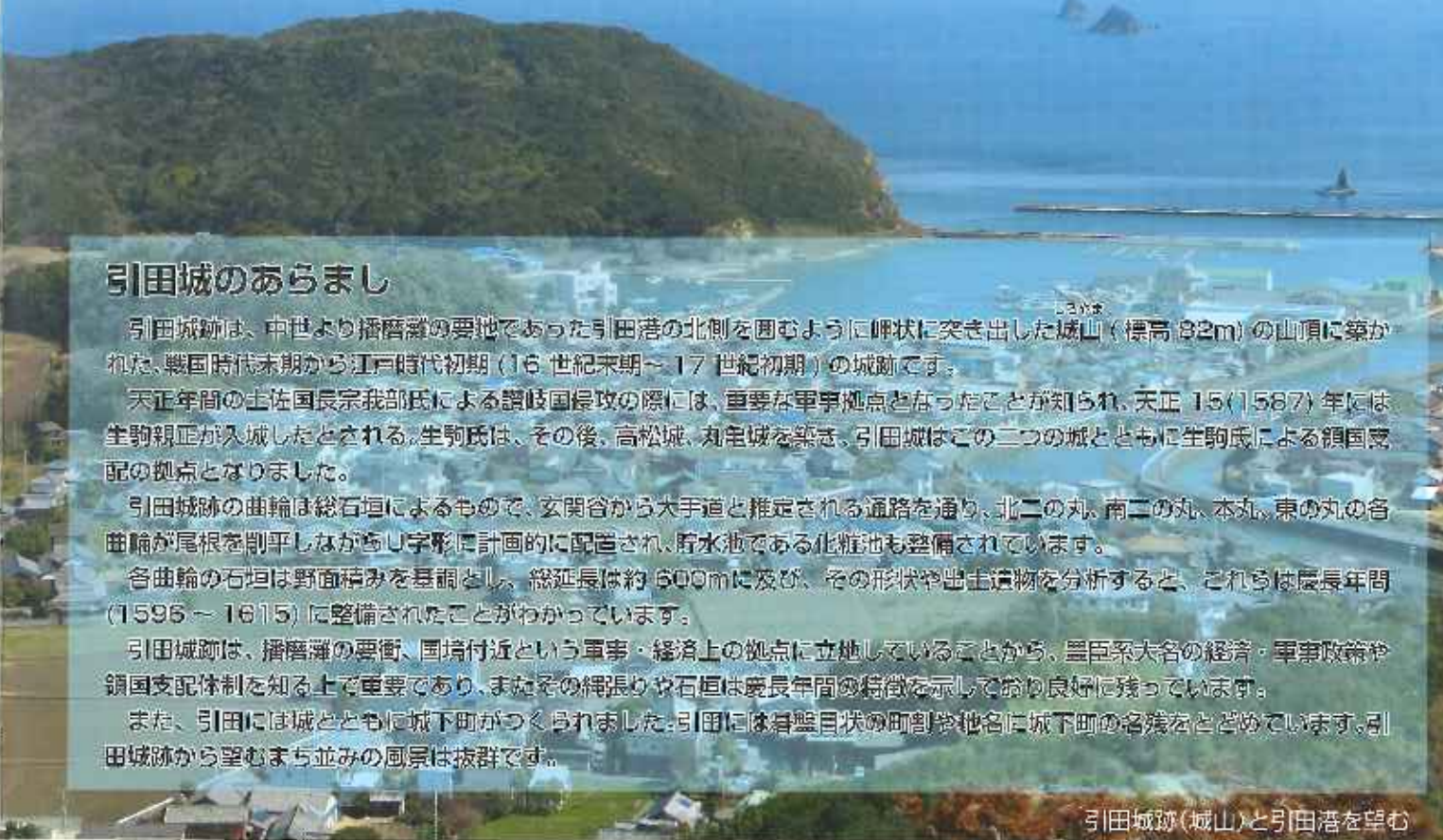
- 讃州井筒屋敷
東かがわ市引田2163番地
TEL 0879-23-8550
開館時間:10時~16時
休館日:毎週水曜日、年末年始
 - 引田公民館(東かがわ市引田庁舎内)
東かがわ市引田513番地1
TEL 0879-33-2533
開館時間:9時~17時
休館日:毎週火曜日、年末年始
- ★開館時間以外は押印できません。ご協力お願いします。

発行
東かがわ市教育委員会 生涯学習課
〒769-2792 香川県東かがわ市湊1847番地1
TEL 0879-26-1238 FAX 0879-26-1340
令和3年3月現在※今後の調査などにより内容が変更することもあります。

播磨灘を望む城

引田城跡

2020年 国史跡指定
2017年 続日本100名城選定



引田城のあらまし

引田城跡は、中世より播磨灘の要地であった引田港の北側を囲むように岬状に突き出した城山(標高82m)の山頂に築かれた、戦国時代末期から江戸時代初期(16世紀末期~17世紀初期)の城跡です。

天正年間の土佐国長宗我部氏による讃岐国侵攻の際には、重要な軍事拠点となったことが知られ、天正15(1587)年には生駒親正が入城したとされる。生駒氏は、その後、高松城、丸尾城を築き、引田城はこの二つの城とともに生駒氏による領国支配の拠点となりました。

引田城跡の曲輪は総石垣によるもので、玄関谷から大手道と推定される通路を通り、北二の丸、南二の丸、本丸、東の丸の各曲輪が尾根を削平しながらU字形に計画的に配置され、貯水池である化粧池も整備されています。

各曲輪の石垣は野面積みを基調とし、総延長は約600mに及び、その形状や出土遺物を分析すると、これらは慶長年間(1596~1615)に整備されたことがわかっています。

引田城跡は、播磨灘の要衝、国境付近という軍事・経済上の拠点に立地していることから、豊臣系大名の経済・軍事政策や領国支配体制を知る上で重要であり、またその縄張りや石垣は慶長年間の特徴を示しており良好に残っています。

また、引田には城とともに城下町がつけられました。引田には扇形目録の町割跡地名に城下町の名残をとどめています。引田城跡から望むまち並みの風景は抜群です。

引田城跡(城山)と引田港を望む

引田城跡略年表

応仁元年	1467	国人の寒川氏が引田を所領とする。
永正年間	1504~21	信濃国から入った四宮右近が寒川氏に属して引田城を居城とする。阿波三好氏と交戦する。
元亀元年	1570	阿波三好氏の家臣矢野駿河守が引田城主となる。
天正5年	1577	矢野駿河守が阿波国に引き上げ、以後引田城主がいなくなる。
天正10年	1582	土佐長宗我部氏の讃岐国侵攻が本格化する。
天正11年	1583	羽柴秀吉が淡路国洲本の仙石秀秀を讃岐国に派遣する。家臣の森志摩守を引田城に入れる。長宗我部勢と仙石勢による引田合戦が行われ、仙石勢が敗れ、小豆島に退却する。
天正15年	1587	生駒親正が豊臣秀吉から讃岐国を与えられ、播磨国赤穂から引田城に入る。ほどなく引田を出て宇多津、高松に移る。
寛永20年	1643	高松藩初代藩主松平頼重が城山にて鹿狩を行う。このころには廃城になっていた。
文久3年	1863	城山に異国船警備のため鐘つき堂が設けられる。
大正末期~昭和初期	1924~30	引田城跡がある城山が、遊歩道や展望台が整備されて城山公園として観光地となる。

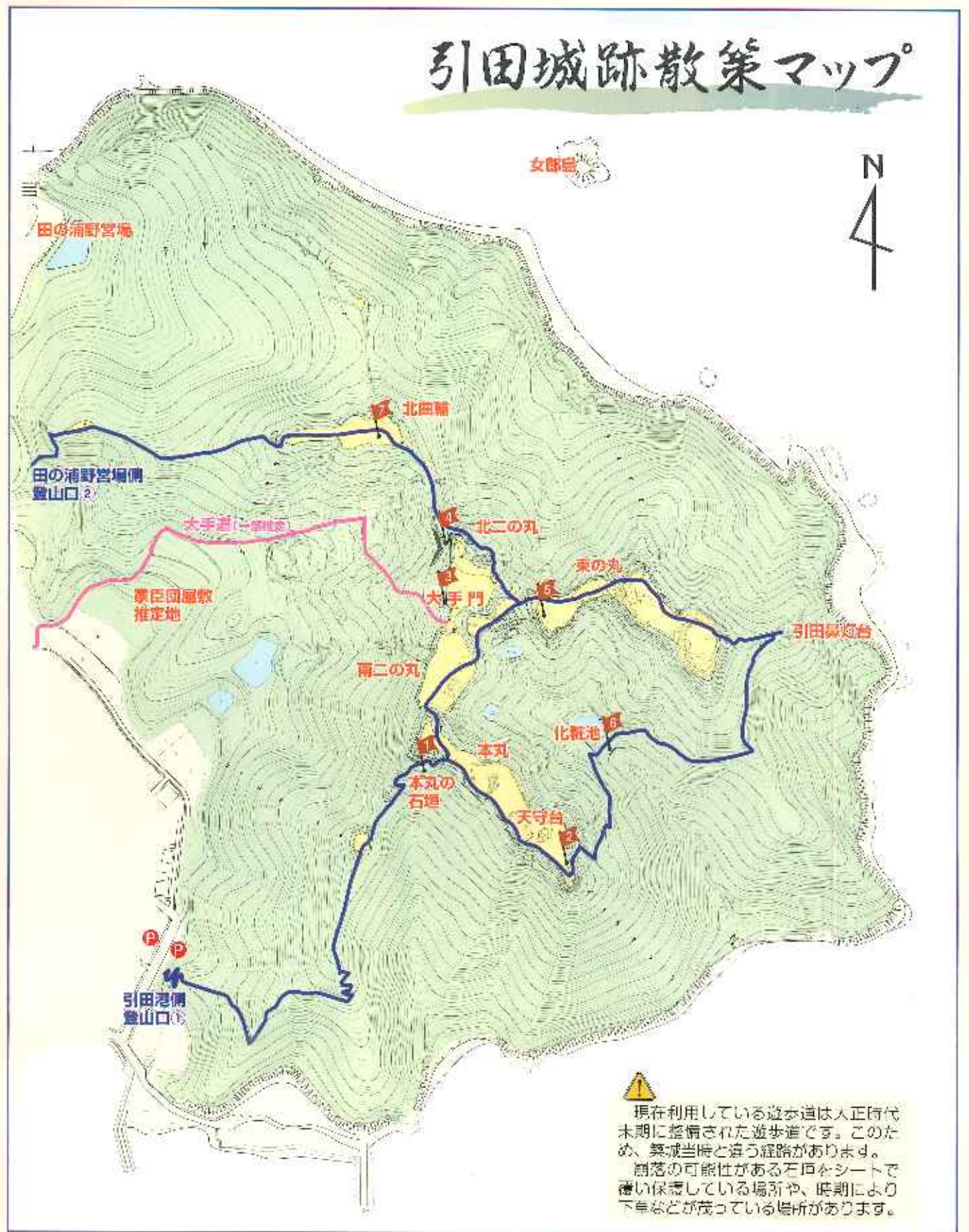
各曲輪の石垣は野面積みであり、総延長は600mに及びます。引田城跡の曲輪は、香川県内において在地領主が築いた城郭の石垣の高さや規模で格段に違いが見られます。

発掘調査により、曲輪には礎石や多くの瓦が出土していることから、瓦葺きの礎石建物が建てられていたことが明らかとなりました。

これらの築城技術は織田信長の安土城築城から始まり、織田信長・豊臣秀吉方勢力によって築かれた織豊系城郭と呼ばれる城郭の特徴です。豊臣秀吉の家臣である生駒氏が築いた曲輪や石垣が残っていることは、織豊系城郭の全国的な普及を捉える上でも貴重な山城といえます。

また、山頂からは、播磨灘、讃岐山脈、引田港、引田のまち並みが一望でき、瀬戸内海海運のネットワークを強く意識した立地に引田城が築城されたことがよくわかります。

引田城跡散策マップ



⚠ 現在利用している遊歩道は、大正時代末期に整備された遊歩道です。このため、築城当時と違う経路があります。崩落の可能性がある石垣をシートで覆い保護している場所や、時期により下草などが茂っている場所があります。

引田城跡の見どころ



1 本丸の石垣

本丸の築城は、隙間に間詰め石を用いる古い積み方で、引田城跡で最初に築かれた石垣です。



2 本丸からみた引田のまち並み

本丸は、引田の町(マチ)から最もよく見える位置にあり、権力を示すのに適した場所です。



3 大手門

大手門の周辺には大きな石材が置かれています。石垣によって城主の権威を示そうとしています。



引田城想像図 大正時代作成

後世の想像図であるため、建物の構造の信ぴょう性は高くありませんが、曲輪の配置はほぼ的確にとらえています。



6 化粧池

化粧池は、引田城のお姫様や女中たちがこの池の水を使って化粧していたと伝えられています。水不足を克服するために築かれた人工の貯水池です。化粧池側の石垣は、ほかの石垣より、後世に築かれたものです。



4 北二の丸

大手道を登っていくと、道の左右に北二の丸と南二の丸の石垣が広がります。北二の丸には上段2~3m、下段5~6mの石垣が残っています。上段の石垣は城内でも大きな石材を使っています。下段の石垣では間詰め石が丁寧に詰められています。石垣で囲まれた北二の丸と南二の丸は、御殿があった場所と推定されています。



5 東の丸

東の丸は、上中下3段の曲輪から構成されています。火薬を保管した煙硝蔵など軍事施設があったと推定されています。中段には橋がありました。



7 北曲輪

北曲輪には石垣が築かれていません。これは石垣を備えた播磨期の引田城以前の土づくりの引田城の遺構と考えられます。